

自然の脅威、 備える必要性

写真は6月11日の大雨時、赤井川を写したものです。今回の大雨は県内の約30万人に避難勧告が出されるほど、各自治体に甚大な被害を及ぼしました。今なお、被害があった市町村の復旧が心配されます。本町は土手の崩落数か所程度の被害がありましたが、「雨雲の動きが違っていたらどうなっていたか」と考えさせられます。

近年、本町は運よく災害を免れていますが、いつ大型の台風や豪雨の直撃を受けるかわかりません。7～9月は大雨と台風のシーズン。自分が被災するとは考えにくい、考えたくないものですが、自分の身を守るのは自分だということを今一度心に刻みましょう。

備えることが最大の自助行動

防災6つの心構えチェック

- ☐ 家の中や周辺に危険な場所はありませんか？
- ☐ 非常持ち出し品を準備していますか？
- ☐ 雨に注意していますか？
- ☐ 「うちに限っては…」と油断していませんか？
- ☐ 避難場所は決めていますか？
- ☐ 正確な情報と知識を持っていますか？

72時間の壁を超える

最近建てられた家は地震に強く、食器棚やタンスが倒れるほどの被害があっても、建物自体は無事というケースが多いです。そのため備蓄品が潰れるなどの可能性が低くなったので、より一層その活用性が高くなっています。被災があった地域を見ますと、約72時間で支援物資の供給が始まっています。町にも備蓄品はありますが、全町民の3日分の水と食糧を確保しておくとなると購入費用、消費期限切れによる更新費用、そして備蓄できる広さの倉庫や管理する人員などが必要となってくるため難しくなってきます。

